



【果樹】

縮間伐及び園地環境の改善

高品質果実の生産、低樹高化のためには、十分な樹間距離が必要になります。密植園では、樹高が高くなり作業性が低下し、また日陰になるため高品質果実の生産ができません。剪定に入る前に縮間伐をして十分な樹の間隔を確保しましょう。併せて、園地の防風林等の手入れもしましょう。

【温州みかん】

施肥

○苦土タンカル 200kg/10a 酸性土壌の是正が目的です。

* 葉色の悪い園(微量要素不足の可能性あり)では、マルチサポート 80kg/10a を使用

整枝剪定(大津・青島) 2月中旬以降(厳寒期を過ぎた頃)から始めましょう。

大津・青島は大果系です。剪定量が多いと大玉果となります。

中玉果の生産のために隔年で管理方法を変えましょう。

① 表年の樹

ハサミ剪定を主体で主枝の切り下げ、下垂した枝の切返し、密生した夏秋梢の整理、強い夏枝の発生部からの除去等をしてしましょう。剪定量を増やすと大玉果の原因になります。剪定量は1割以下を目安とします。

② 裏年の樹(昨年着果が多かった樹)

ノコギリ剪定を主体に樹形を整えましょう。樹形は3本主枝の開心自然形が基本になります。剪定量が多いと、翌年大玉果が増えますので、剪定量は2割以下を目安とします。

③ 共通

薬剤散布や収穫の作業性向上のため、樹冠内部への入り口を北側に作りましょう。

強い内向枝・病虫害被害枝・枯れ枝は除去しましょう。

【うめ】

病虫害防除 *下線が引いてあるものは重要防除です。必ず防除を行いましょう。

1月

○灰星病 (開花期始め) ベルクート水和剤 収穫30日前 3回 2,000倍 50g/水100㍓
(満開期) オーシャイン水和剤 収穫前日 3回 3,000倍 33g/水100㍓

* 灰星病の罹病枝が分からない方は、最寄りの営農経済センターにご確認ください。また、十郎を栽培している場合は、十郎の開花状況に合わせましょう。

* 灰星病で枯れた枝は開花期までに剪除して、園内に残さないことが重要です。

3月上旬～3月下旬

○かいよう病 コサイド3000 2,000倍 50g/水100㍓

3月中旬～3月下旬

○アブラムシ類 スミチオン乳剤 収穫14日前 2回 2,000倍 50ml/水100㍓ 又は
チェス顆粒水和剤 収穫21日前 2回 5,000倍 20g/水100㍓

○灰色かび病 ポリバリン水和剤 収穫30日前 3回 1,000倍 100g/水100㍓

* 灰色かび病の防除は、満開期・落弁期が目安となります。品種別に防除適期も異なります。適期の防除を心掛けましょう。

【水稻】

冬季耕うん 12月、1月に行っていない方は直ちに行いましょう。

冬季耕うんの主な目的は①～④となります。1～2回を目安に冬季耕うんをしましょう。

① 刈り株・ワラを分解します。＊田植え直前（春）にすき込むと病害虫が発生しやすくなります。

② 病害虫の越冬場所になりやすい「ひこばえ」を除去します。（害虫を越冬させない）

③ 雑草の発生を抑えます。

草種により効果が異なりますが、多年生雑草の塊茎・種子を乾燥により減少させます。

＊セリは春に耕うんすると、増えてしまいます。

④ 水稻除草剤の効果を安定させます。（田面が平らでないと効果が弱まります。）

スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）対策

ジャンボタニシ発生水田では、寒期にロータリー耕を行い貝を掘り起こし寒気にさらすとともに破碎します。作業速度を遅くしロータリーの回転数を高く浅めに耕うんすると効果が高まります。

【キウイフルーツ】

* 下線が引いてあるものは重要防除です。必ず防除を行いましょう。

病害虫防除 3月中旬（発芽前）

〇かいよう病 ICポルドー66D 50倍 2,000g/水100ℓ

〇キウイヒメヨコバイ アグロスリン乳剤（劇） 収穫7日前 3回 2,000倍 50ml/水100ℓ

剪定

剪定が終了していない園は、速やかに剪定を終わらせましょう。

【お茶】

整枝 3月中旬（寒害がなくなるころ）

秋整枝をしていない園では、摘採面を揃えるため浅く整枝しましょう。

秋整枝をした園で、遅れ芽や立ち葉が出ている園では再整枝（化粧ならし）をしましょう。

※再整枝の目的は1番茶の品質低下防止です。ごく浅く整枝しましょう。深刈りは減収につながります。

施肥 施肥の前に敷き藁・敷き草等をよけておきましょう。

春肥は、一番茶の芽の生育と品質に効果があり、茶樹はこの時期に平均温度が10℃以上になると根が動き始めて、樹体内の養分の転流が始まります。

分肥（2回に分ける）土と混和させると肥効が高まります。

2月下旬と3月中旬に「足柄茶配合 100kg/10a」を1回ずつ施肥しましょう。

定植 3月

新植及び改植する場合は3月に行います。3月の定植に合わせ2月に定植準備をしましょう。

【カキ】

病害虫防除

〇ヒメコスカシバ 幼虫の生息場所をなくすため、粗皮削りを行いましょう。

※ 特に伊豆早生は被害を受けやすいため発生に注意しましょう。

整枝剪定 2月末までには終了しましょう。

樹形は開心自然形が基本になります。主枝3本を理想とし、低樹高化に取り組みましょう。

柿は昨年発生した枝の先2～3芽から出た新梢に花をつけますので、枝の先端は切り返しをせずに 30～50cm毎に充実した結果母枝を配置していきます。

【ジャガイモ】

2月中旬～3月上旬

畑の準備

○馬鈴薯専用配合 052 10kg/a 重焼リン 2kg/a 植付けの半月前までに全面施用し混和しておく

種イモの準備と植付け

植付け前に、一片 40～50g の大きさに切り 2～3 日程陰干しし切り口を乾かす

種イモ量の目安：15～16kg/a

○種イモの黒あざ病による腐敗防止 ベンレート水和剤

種イモ重量の 0.3～0.4% をまぶすと良い (例) 3～4g/種イモ 1kg

幅 60 ㍍程の畝に深さ 7～8 ㍍の溝を作り、種イモの切り口を下にして 30 ㍍間隔に植付ける

※気温が高くなる場合には、種イモの萌芽が進みやすくなります。種イモは通気性の良い容器に移し替え呼吸熱がこもらないようにし、温度 2～3℃ の暗所で保管しましょう。また、種イモの呼吸量が増加すると黒色心腐が発生しやすくなります。発生防止のため温度管理を徹底し高温を避け、換気を十に行いましょう。

農薬を使用する際は、適用作物・希釈倍数・使用回数・使用方法等の使用基準を遵守するとともに飛散防止に努め、ラベルをよく確認し、必ずラベルに基づいて使用しましょう。